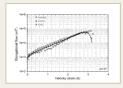
パン焼成中の移動境界モデル

明治大学 総合数理学部 現象数理学科 4年

- 先行論文・粘弾性の特徴を張力でモデル化
 - ・応力と圧力のLodgeモデル
 - ・多孔質体の特徴をエネルギーでモデル化 改善策

- ・実際の挙動を表現できていない
- ・実験データを説明するためのモデル

物理法則を用いて表現する



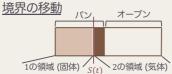
目標

パンの焼成において水分量の変化がないときの移動する境界の挙動を予測する.

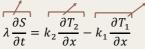
温度と水分量の変化を用いた移動境界モラ

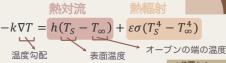
パン内部のクラムとクラストの境を境界sとみなし、温度と水分の変化を用いて境界の移動する挙動を予測する. 表面の位置は固定され、体積変化は考慮しない、熱や水分などの物理量は相変化を含む連続関数である。



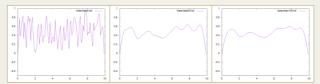


境界の移動速度





支配方程式



気体領域 熱伝達率 [W m-2 K-1]

ツマン定数 [W m⁻² K⁻⁴]

水分量一定の移動境界モデル

パンの焼成中において**水分量を**各領域ごとに**一定と仮定**し、温度変化にのみ着目して**境界の挙動を予測**する。 先行研究を元に仮定を加え、モデルを変更する。

仮 定

- ・水分量を固体領域で0.8, 気体領域で0.5
- ・デルタ型関数を考慮しない
- ・変数の定義域を境界の位置で分ける
- ・熱輻射の影響を考慮しない
- その他変数は先行研究に従う

支配方程式

$$\rho C_{p} \frac{\partial T}{\partial t} = \nabla \cdot (k \nabla T), W = \begin{cases} 0.8 & (x \leq S) \\ 0.5 & (x > S) \end{cases}$$

$$C_{p} = C_{p_{d}} + WC_{p_{w}}$$

境界条件

$$\lambda \frac{\partial S}{\partial t} = k_2 \frac{\partial T_2}{\partial x} - k_1 \frac{\partial T_1}{\partial x}$$
$$-k\nabla T = h(T_S - T_{\infty})$$

数値シミュレーション

初期条件 sの位置:0.374[m], オーブンの長さ:1[m], パン内部:25~75[°C], オーブン内部:180~190[°C], オーブンの端:200[°C]



結果 時刻が進むにつれ、熱の拡散によりグラフが滑らかになっている。また、境界が徐々に右に移動している。すなわちパンの表面を超え てクラストの境界が右側にある. 境界の初期位置より内側では温度の上昇が少なく, 100°Cを超えていない.

各領域ごとに水分量を一定値とすると境界の移動に影響が出ることがわかった. 水分が程よく減少することで適度な厚さのパン耳になると考えられる. しかし、膨張についてのモデルではないので本研究のモデルに誤りがある.